

茨城県議会議員

とこい洋治 県政報告NEWS

若人の “夢と希望”を はぐくむ県政に



◀▲1月13日、岩間町(左)と14日、岩瀬町(上)の成人式に招かれた常井議員は、21世紀の日本を担う新成人を祝福し、彼らの大いなる飛躍を願った。

成功させよう!2002年茨城開催!!

- ・2002年FIFAワールドカップサッカー予選(6月)
- ・茨城高校総体(インターハイ)(8月)



県立中央病院・友部病院の医療体制の充実を求め、 予算特別委員会で質問

平成13年第4回定例県議会の予算特別委員会が、13年12月19日に開催されました。常井洋治議員は、当委員会で初めての質問に立ち、地元の県立中央病院の医療体制の一層の充実と友部病院(精神科)の早期改築を知事及び保健福祉部長に鋭く迫りました。

常井議員は、常日頃から「安心できる日常生活のためには、医療・福祉の充実が最も大切だ。」と考えております。今後も、皆様とともに、より良い施策の実現を求めてまいりますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



一緒に創ろう！ ふるさと西茨城郡 友部町 岩間町 岩瀬町 の新時代

『県民のいのちと健康を守る医療体制の充実』は常井洋治議員の政治的ライフワークです。

常井議員は、平成13年12月19日の予算特別委員会で、右の事項について質問をしました。その中から一部の要約を、皆様にお知らせします。特に、県立中央病院（山邊登院長）の利用者は、西茨城郡3町の住民が、入院で32.3%、外来で44.2%を占めています。同病院は、地元医師会との連携・協力も良好に図っています。西茨城郡地域の住民の生活において、同病院の充実は、重要な意義をもっていますので、常井議員は特に力を注いでいます。

●中央病院の患者の地域分布（12年度）

	入院		外来	
	人数	割合	人数	割合
友部町	33,584	21.0	80,266	30.5
岩間町	14,942	9.4	33,087	12.6
岩瀬町	3,059	1.9	2,977	1.1
その他	108,050	67.7	147,094	55.8
合計	159,635人	100.0%	263,424人	100.0%

*「病院概要」より

●中央病院の概要(H13.4.1現在)

病院数	500床	一般	475床
		結核	25床
職員数	551人	医師	59人
		看護婦	592人
一日平均患者数		入院	438人
		外来	1,075人
			(12年度)

質問事項	答弁者
I. 県立中央病院の運営について	保健福祉部長
1. 医療体制の充実	〃
(1) 国立水戸病院の移転後の連携	〃
(2) 心臓血管外科の開設と救急医療体制の充実	〃
(3) 災害拠点病院としてのヘリポートの設置	〃
2. 高度医療への取り組み	〃
3. 今後の運営方針	〃
II. 県立友部病院の改築整備について	
1. 現在までの取り組み	保健福祉部長
2. 今後のスケジュール	知事
III. 情報発信戦略会議について	理事兼政策審議監



▲県議会の花形である予算特別委員会で、論陣を張る常井議員

I. 県立中央病院の医療体制の充実について

*心臓血管外科の開設と救急医療体制の充実を求める！

（常井議員） 現在、県立中央病院では、心臓外科手術ができないが、心臓血管外科を開設し、さらに救命救急センターとして、整備すべきではないか。3大疾病であるがん・心臓疾患・脳血管疾患の全てに対応してこそ、他の医療機関をリードする役割を担う県立病院ではないか。

（保健福祉部長） 県立中央病院では現在、心臓疾患の患者は、循環器内科で対応しているが、緊急に外科的な治療が必要な患者については、県立中央病院の医師や看護婦の付き添いのもと、水戸済生会総合病院へ転送して対応している。

県央地区における救急医療は、国立水戸病院で重篤な患者を対象とする第三次救急（いわゆる救命救急センター）を、県立中央病院及び水戸済生会総合病院では第二次救急という役割をそれぞれ担っている現状にある。

※私はこの答弁については、非常に不満であります。心臓疾患に完結的に対応できる病院にしたいとの中央病院の医師スタッフの強い意欲もありますので、引き続き心臓血管外科の開設の実現に向けて努力してまいります。（常井洋治追記）

*専用ヘリポートも引き続き検討

（常井議員） 災害拠点病院としてのヘリポートの設置について、私の一般質問により平成12年度に調査費をつけたが、その後の検討状況はどうなっているのか。何がネックとなって進まないのか。

（保健福祉部長） 平成12年度に調査した結果、敷地内においては2か所の候補地が決定された。しかし、そこに実際に設置する場合、駐車場や建物があるため、盛土や立体構造とする

必要があることから、多額の整備費用がかかるということで、進まなかったという事情がある。

この間に、航空法規による救急ヘリの離着陸の取り扱いが緩和され、災害時や緊急時のヘリコプターの緊急離着陸場として、運動公園やグラウンドなどの利用が可能となったので、当面は隣接する県立リハビリテーションセンターのグラウンドの活用を図っていきたく考えている。引き続き、専用のヘリポートの整備についても検討していきたい。

*国内トップレベルの医療水準を誇る中央病院

（常井議員） 中央病院には公的病院として、高度医療を担うため、一般会計から多額の負担金を繰入れている（12年度は、約25億円）が、一体、高度医療とはいかなるものをいうのか。どのような成果・実績をあげているのか。

（保健福祉部長） 県立中央病院の高度医療の例としては、地域がんセンターを併設し、外科的治療や放射線治療などを組み合わせた、総合的ながん治療の研究及び診療体制の整備があげられる。そして、その成果・実績としては、肝臓、胆のう、膵臓がんという、いわゆる難治性がんの手術例数では、県内一である。

また、このがん治療に対する高水準の医療を支えているのが優秀な医療スタッフであり、特に放射線科は、北米放射線学会やヨーロッパ放射線学会で金賞を受賞するなど、その水



▲北側(常磐線側)から見た中央病院。同病院を中心に、新たな「医療・福祉ゾーン」として、諸施設の機能充実と再編整備が期待される。

準は世界的であり、がんの放射線診断においては、我が国のトップレベルにあると自負している。

(常井議員) 色々な機会に優秀なスタッフなど中央病院の高度な医療水準をPRし、信頼度を高める工夫はできないのか。

(保健福祉部長) 中央病院のPRについては、病院の特色や、これらの成果・実績を含めて、今後も積極的に行い、常井委員から提案をいただいた趣旨を踏まえ、今後工夫しながら、なお一層信頼される県立中央病院となるよう、努めていきたいと考えている。

* 質の高い医療サービスの提供をめざす

(常井議員) 国の医療改革が予定されていることや昨年度の包括外部監査の指摘を踏まえて、病院の運営方針について、県立中央病院経営改革委員会で検討していると聞いているが、どういう内容なのか。

(保健福祉部長) この委員会では、県立病院としての政策医療や高度医療のあり方や、地域中核病院としてのあり方、さらに、ITの活用による医療サービスの向上などを重点的に検討し、その結果を年度内に取りまとめることとしている。

(常井議員) また、今後、県立の総合病院として、どのように運営していくのか。

(保健福祉部長) この結果を踏まえて、県立の総合病院として、より質の高い効率的な医療サービスの提供ができるよう更なる経営改革に取り組みたいと考えている。

II. 県立友部病院の改築整備について

* 「もう限界ですよ、橋本知事！」知事の英断を求める。

(常井議員) 友部病院は昨年開設50年を経過し、施設の老朽化が著しい。管理棟は築後63年を経過している。

今後、友部病院は民間医療機関との役割分担や児童・思春期医療などの新たな分野への対応も重要である。

私は、改築は県政にとって緊急の課題であると考えているところであり、新たな機能への対応を踏まえた現在の取り組みについて、保健福祉部長にお伺いしたい。

(保健福祉部長) 改築については、平成12年の県精神保健福祉審議会の答申を踏まえ、現在内部の検討を進めるとともに、併せて専門的な意見をいただくために、精神科医や教育、法律関係者、さらには障害者団体の代表で構成する「県立友部病院改築整備検討委員会」を設置して、機能や規模などについて審議をいただいている。

特に、この中で、機能面については、急性期医療を中心に、アルコール中毒性障害や児童・思春期等の専門的な医療及び民間医療機関においては治療が困難とされる患者への医療を担う病院としての整備を検討しているところである。

(常井議員) 平成5年に知事は、就任まもなく基本計画まで

進んでいた友部病院の改築計画を凍結した。以来8年経過している。行政は中断・中止する場合は、県民に対する説明にそれほど熱心ではない。やめるときも説明責任があると思う。

患者の人間の尊厳を守り、「県立病院」としての名に恥じない病院とするため、早急に改築に着手すべきではないか。橋本知事、もう限界ですよ。知事も何度も現場を見て実情をよく知っていると思う。

精神障害者は、県内に約38,000人と推定され、増えてきている。これから、精神障害者に対する行政は、非常に重要になってくるので、県立である友部病院の役割は大きい。

(知事) 改築計画を延ばしたのに理由を明らかにしなかったことは、誠に申し訳なく思っている。今後このような点についても、十分に配慮した行政を行っていきたい。

延ばした理由としては、当時社会的入院患者が相当多いのではないかと、一方では民間医療機関との役割分担をどう考えていくのかとかの課題が残っていた。また、平成7年度の精神保健福祉法の改正により入院治療から開放治療、地域社会での生活を重く取り入れたほうがいいのではないかとということなど、さまざまな動きがあった。



▲友部病院の管理棟。事務局・受付・診察室がある。昭和13年に霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊が筑波航空隊として独立したとき、本部として建設されたものである。

改築については、現在県精神保健福祉審議会の答申を踏まえて検討を行っているので、今年度中に、おそらく中間報告が頂けるのではないかと思います。

したがって、今の段階で、具体的な全体のスケジュールを申し上げるわけにはいかないが、財政状況が許せば、できるだけ早く整備したいと考えている。

建設場所については、常井委員からもお話がありましたように、単科の病院として現在地立て替えが良いのか、さまざまな関連の病気の治療のためには、総合病院との連携がとりやすい場所のほうが良いのか、そのような点につきましても、十分みなさんの意見を聞きながら、検討を進めてまいりたいのでご了承をいただけたらと思っている。

その間、少し時間がかかることを踏まえ、今回、児童・思春期病棟の改築に踏み切ったところである。

(常井議員) 「財政状況が許せば」というような言い方ではなく考えていくべきだ。財政状況がきつい中で何を優先してやるかというのは、知事の決断と議会の対応にかかっている。是非とも知事の肉声で知事の顔を全面に出して、知事の決断でやったら県民にアピールできるかたちで早急に改築を進めていただきたい。(答弁は求めない。)

平成14年第1回定例県議会が開会中です。

会期：2月26日～3月22日(25日間)

文教治安委員会の質疑概要

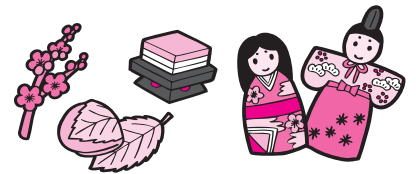
(H.13.12.12)

刑法犯検挙率低下に 社会ぐるみで取り組む体制を！

教育庁部門において常井委員は、小中学校の社会人TT（ティームティーチング）の顔が見えない現状を踏まえて、社会人TTの配置状況、配置の考え方、成果に対する評価を質しました。それに対し、教育庁では、これまで緊急雇用対策の社会人TTを3年間で1,692人採用した結果、学力や学習意欲の向上が図られたり、保護者から丁寧な授業で子供が大切にされたとの良い評価が多いと述べました。そして、今後社会人TTを増員したい旨答弁がありました。

警察本部部門では、平成12年の刑法犯認知検挙率が21.7%と著しく低下した原因を質しました。それに対して、ここ2年間で1万件を超えて急増し、12年に52,110件^{*}になっており、事件も強盗などの重要犯罪の増加、複雑化、広域化、外国人犯罪の増加により対応が困難な状況が挙げられました。同委員は、少年犯罪の防止など社会全体で犯罪防止に取り組むため知事部局や教育庁との連携強化の仕組みづくりを提言しました。

※県警本部のその後の発表によると、13年の刑法犯認知件数は、60,681件、検挙率は19.6%となっています。



▲友部町の茨城福祉工場を保健福祉委員会が訪問。地元議員として同行した。71人の障害者の皆さんが元気に働いている。常井議員は、同工場の拡充に熱心に取り組みます。右隣は川津隆委員、左隣は鈴木孝治委員。(平成14年1月)



▲岩間町消防出初式で、消防団員の皆さんの献身的な活躍に感謝を述べた。右端は岡野団長。(14年1月)



▲岩瀬町小塩区、山口区の皆さんからの要望で、桜川のたい積土砂の除去を実施した。(13年12月)

▲友部町の「まちづくり新春賀詞交歓会」で、多くの皆さんの笑顔に囲まれ、友部町の発展を願って歓談した。(14年1月)



燃える郷土愛。全力投球!!

—「医療・福祉」の充実は、私の原点です—

私に対して、皆様方からお寄せいただいているご支援に心からお礼申し上げます。

私は、平成10年12月の県議選で、西茨城郡の皆様から13,630票のご支持を頂き、トップ当選することができました。

早いもので、既に4年目に入り、年末には改選期を迎えることになりました。私は、これまで常に、「生活者としての県民の目線」と「納税者の視点」で県政に皆様方の声を高らかに反映するために、精いっぱい努めてまいりました。残る任期をこれまでどおりの姿勢で全うして、有権者のご審判を仰ぎたいと考えております。

さて、私はこの度予算特別委員会で、地元友部町の中央病院の医療体制の充実を中心に質問しました。私は、県職員の新採用時に希望して当時の医療福祉課に勤務したこともあり、医療・福祉の充実は、私の原点であり、

現在の私の政治的ライフワークの一つでもあります。友部町の県立中央病院を中心として、それに隣接する県関係の医療・福祉の諸施設の集積を有効に活かして、お互いに連携した『医療・福祉ゾーン』として拡充し、本県の医療・福祉のメッカにしていきたいと考えております。そうすることが、地元西茨城郡の住民に大きなメリットをもたらすことになると確信しております。

私は今後とも、毎日コツコツと皆様のご用聞きに徹していきたくと考えています。

引き続き絶大なるご支援をお願い申し上げます。



茨城県議会議員 常井洋治

常井洋治県議ホームページ「県政を語ろう」 アドレス●<http://www.net-ibaraki.ne.jp/tokoiy/>

※一般質問、委員会質疑の議事録は、このホームページからリンクして見ることができます。